

事業名: COVID-19患者受け入れ機関における院内感染対策および病院管理

実施主体: 国立国際医療研究センター(NCGM)国際医療協力局

対象国: ベトナム

対象医療技術等: ④COVID-19、感染管理

事業の背景

COVID-19流行時、医療機関を受診した疑い例・確定例への対応以外に、感染管理を行いながら通常診療を継続すること、人材をはじめとする限られたリソースの活用など、病院管理およびそのための行政の支援が感染制御の鍵となる。今回対象とするベトナムを始め、国際医療協力局がこれまで支援を継続してきた国々、また日本が保健分野に関する協力覚書を交わしている国々から、日本の感染管理および病院管理について学びたいという声が上がっている。今回研修を実施したバックマイ病院は保健省直下の医療機関であり、周辺機関への支援・指導機関であり、ベトナムにおけるCOVID-19対応の中心的な役割を担う医療機関となっている。

事業の目的

- 日本でCOVID-19の受け入れを積極的に行い、かつ院内感染を起さずに対応を継続しているNCGMの病院管理と院内感染対策をベトナムをはじめとする日本のモデルを学びたいというニーズのある国々へ、ビデオ研修を通じて指導を行い、各施設のCOVID-19対策および院内感染対策が改善する。
- COVID対策としての院内感染対策とともにCOVID患者を受け入れながらの通常の診療への対応策を学び、地域の基幹病院としてのサービスを維持・発展する。

2

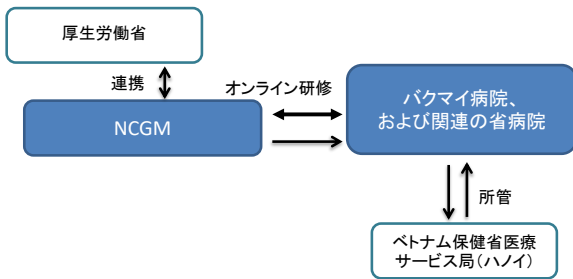
COVID-19患者受け入れ機関における院内感染対策および病院管理の事業に関して報告致します。当事業は国立国際医療研究センターの国際医療協力局が主体となり、ベトナム国で実施いたしました。対象医療技術はCOVID-19ないし感染管理になります。

事業背景と致しましては、COVID-19流行時、医療機関を受診した疑い例・確定例への対応以外に、感染管理を行いながら通常診療を継続すること、人材をはじめとする限られたリソースの活用など、病院管理およびそのための行政の支援が感染制御の鍵となります。今回対象とするベトナムを始め、国際医療協力局がこれまで支援を継続してきた国々、また日本が保健分野に関する協力覚書を交わしている国々から、日本の感染管理および病院管理について学びたいという声が上がっています。今回研修を実施したバックマイ病院は保健省直下の医療機関であり、周辺機関への支援・指導機関であり、ベトナムにおけるCOVID-19対応の中心的な役割を担う医療機関となっています。

事業目的は2点です。1点目は、日本でCOVID-19の受け入れを積極的に行い、かつ院内感染を起さずに対応を継続しているNCGMの病院管理と院内感染対策を、ベトナムをはじめとする日本のモデルを学びたいというニーズのある国々へ、ビデオ研修を通じて指導を行い、各施設のCOVID-19対策および院内感染対策が改善することです。2点目は、COVID対策としての院内感染対策とともにCOVID患者を受け入れながらの通常の診療への対応策を学び、

地域の基幹病院として、またを維持・発展するに努める。

実施体制




研修目標

- 研修受講者の各医療機関におけるCOVID-19対応のためにより病院管理および感染管理の対応が見直される。

実施体制です。当院は厚生労働省と連携しており、バクマイ病院は先ほどのスライドで述べた通り、保健省直下の病院であり、ベトナム保健省医療サービス局と密接な関係にあります。本事業はオンライン研修を通じて、医療技術の移転を行いました。研修目標は、研修受講者の各医療機関におけるCOVID-19対応のために、病院管理および感染管理の対応が見直されることです。

1年間の事業内容

活 動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
A. 現地とオンラインで研修ニーズの確認、研修受講者の選定など							 <ul style="list-style-type: none"> • 遠隔システムを用いた準備会合(2回) • 継続的なメールベースの連絡調整 						
B. オンライン研修パッケージの作成							 <ul style="list-style-type: none"> • 23項目の講義資料教材作成 • 各種動画翻訳 (日→英、越、仏、その他) 						
C. オンライン研修の実施、評価							 <ul style="list-style-type: none"> • 遠隔システムを用いた研修を実施(1月14日) • ベトナムのバクマイ病院から70名参加 • 終了後アンケート評価及び関連資料閲覧配布 						

1年間の事業内容です。本事業は追加募集の事業のため、10月より事業が開始しました。10月から1月にかけて、遠隔システムを用いた準備会合及び継続的なメールベースの連絡調整を行い、現地の研修ニーズの確認や、研修受講者の選定等を行いました。バクマイ病院には、国際医療協力局の現地スタッフがいるため、彼らを通じて頻繁にバクマイ病院の研修担当者と連絡を取り合うことが可能でした。そして、10月から平行してオンライン研修用の教材パッケージを作成しました。NCGMはCOVID-19対応および感染管理に関して、様々な部門が実施しています。そのため、様々な科がどのような対応をおこなったかを講義形式の動画として作成しました。また本来であれば、当院に来院して現場を見て戴くことが一番勉強になるのですが、今回はそれができませんので、代わりに当院内を実際に視察したかのような、院内ツアー形式の動画を、他展開推進事業と協力して作成し、そちらも教材パッケージとして使用しました。作成した講義は、越語のみならず英語や仏語、モンゴル語に一部翻訳致しました。本事業は今年度に全ての教材を使用することは、時間的制約のためできませんでしたが、来年度以降に使用する予定です。また、先に申し上げた通り、NCGMでのCOVID-19対応は他国からの要望の高い医療技術支援であり、実際に他展開推進事業でも、この教材を使用して戴きました。オンライン研修実施は2021年1月14日に遠隔システムを用いて実施し、管理者を主体としてバクマイ病院から70名参加しました。時間の制約上実施できなかった教材の一部は、期間限定でオンライ

ンで学習できるようにURLを共有しました。終了後にアンケートを実施し、今回の研修を振り返るとともに、作成した教材パッケージのうち今回使用できなかつたものの、授業に興味があるものを伺い、今後のニーズも確認しました。



実際に研修を実施している風景です。講義内容としましては、日本のCOVID-19感染拡大防止のための取り組みやNCGMでのCOVID-19の取り組み、NCGMがCOVID-19対策としてとった病院運営のみならず、バクマイ病院でのCOVID-19の取り組みを相手側より講義していただき、双方の実際に対応に当たった方が、質疑応答を行うことで、意見交換を行いました。研修開始時には少しオンライン環境の影響か、繋がることに時間がかかりましたが、講義をあらかじめ翻訳した言語で作成していたため、動画配信は同時翻訳よりも時間的節約が出来て、かつ相手国側で放映出来るので、ネット回線の影響を受けにくかったです。

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画 (具体的な数値を記載)	①オンライン研修受講者数(4病院40名)	①研修で学んだ病院管理、感染管理に関して、研修後院内で行われた研修数(実施数、参加者数)(目標:各病院で少なくとも1回、参加者20名)	①DOHAを通じてベトナム国内で関連研修が行われる。 ②本研修の内容が病院管理のガイドラインに導入される。
実施後の結果 (具体的な数値を記載)	①オンライン研修受講者数(1病院、70名)	①未達成(報告なし) ※ERより資料提供の依頼あり	①②ともに未達成(報告なし)

本年度の成果指標とその結果です。アウトプット指標に関しましては、オンライン研修で4病院から40名が参加することを目標とあげていました。結果としましては、バクマイ病院側の希望もあり、今回はバクマイ病院の参加者のみとなりましたが、70名に参加して戴きました。アウトカム指標に関しましては、研修で学んだ内容が更に研修後院内で研修されることをあげましたが、これに関しては2021年1月に実施したこともあり、現時点での報告はありません。一方で、例えば救急科より科内で研修内容を共有したいということで資料共有の依頼がありました。一定の研修後の院内での広がりがあることが推測されています。インパクト指標として、DOHAを通じた国内での関連研修及び、病院管理のガイドラインへの研修で学んだ技術の収載が挙げられましたが、こちらも未達成です。

今年度の相手国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
→なし
- 事業で紹介・導入し、相手国の調達につながった医療機器の数
→なし

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
→70名
- 日本で講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数
→0名
- 相手国で講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数
→0名
- 遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数
→70名
- 期待される事業の裨益人口(延べ数)
→2400万人
(バクマイ病院が中心となり医療サービスを提供するベトナム北部31省の人口) *

* : JICAベトナム社会主義共和国バクマイ病院プロジェクト終了時評価報告書(2004)参照
https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/11781408_01.pdf

今年度の相手国への事業インパクトに関する報告です。今年度の研修における直接的な医療技術・機器の国際展開における事業インパクトはまだありません。一方、健康向上における事業インパクトは、事業で育成した保健医療従事者の延べ数が70名と、当初の計画より多くの方に参加していただきました。来日して直接NCGMの院内活動をみて戴くことは、COVID-19の流行下では困難となりましたが、遠隔システムを用いた講義を行うことで、より多くの医療従事者にアプローチする機会を得られました。バクマイ病院はベトナム北部の医療サービスの中心となる病院であり、COVID-19の治療において重要な役割を担う病院であることを考えると、多くの裨益人口が期待されます。

これまでの成果(事業が複数年継続している場合は、各年度の成果を含めて下さい)

- 教材作成: COVID-19に対するNCGMの取り組みや感染症対策をまとめた各種教材の作成した
 - ✓ 他事業と連携することで複数内容に関する資料教材(32項目)を作成し、多言語(越・英・仏・他)に翻訳した
 - ✓ 動画の教材があるため、オンデマンド教材として使用することが出来る
 - ✓ 来年度以降も適宜更新しながら、平時の感染症対策とCOVID-19のような有事の対応に関する教訓の学びを共有する教材として使用することが出来る
- 研修実施: 2021年1月14日にバクマイ病院の70名に対してCOVID-19研修を実施
 - ✓ COVID-19に対する日越の取り組みの共有・意見交換が出来た

今後の課題

- 研修内容を相談する相手(例:教育研修部部长)と実際に受講する相手(例:看護師長)の間に興味の乖離があるため、実際に研修を受講する人のニーズに合致しない可能性がある
 - 今後の方針として、今回の研修参加者へのアンケートを参考にして、研修員のニーズを把握し、ニーズに合致した研修を実施する予定である
- 本年度、オンラインで使用できる動画教材を複数言語・トピックを作成したが、半日研修で実際に使用出来なかった言語・トピックがある
 - 来年度以降も申請予定で、引き続きアップデートして活用予定である

8

これまでの成果と今後の課題です。

今年度の成果として大きなものは、COVID-19に対するNCGMの取り組みや感染症対策をまとめた各種教材を作成したことです。多事業と連携して作成することで、多岐にわたる資料教材を作成することができ、また多言語に翻訳しました。来年度以降も様々な国のニーズに応じて、教材を使用することが可能です。これらの資料の主要物は動画教材ですので、オンデマンド教材として使用することが出来ます。来年度以降も適宜更新しながら、平時の感染症対策とCOVID-19のような有事の対応に関する教訓の学びを共有するために、この教材を使用できます。今年度は2021年1月14日にバクマイ病院で研修を実施しました。70名の管理職の医療従事者中心に参加していただき、双方のCOVID-19に関する取り組みを共有、意見交換出来ました。

今後の課題としまして、研修内容を相談する相手と実際に研修に参加する受講生で、関心事が異なる場合を考慮しようと思います。例えば、本研修は教育研修部の部長を中心に、研修内容を検討しました。実施後のアンケートでは、本研修への満足度は高かったのですが、実際に受講した看護師を中心とした方々からのフィードバックでは、今回の研修教材パッケージの中の、別の教材に対する関心も高かったので、次回研修実施時には、今回の研修のフィードバックを検討して、より参加者のニーズに合致した研修内容にしようと思います。

また、本年度様々なトピック・言語での教材を作成しましたが、ベトナムの

半日研修では使用できなかつた教材もあります。来年度以降も展開事業に申請予定であり、引き続きバクマイ病院のニーズにこたえるとともに、NCGMと関係のある他国での依頼にも応えていきたいと思っております。

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれば記載して下さい。

「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるよう事業の展望を具体的に描いてください(自由形式)。

医療技術のベトナムへの定着の展望:

1. COVID-19研修実施したバクマイ病院での管理者中心に実施済
2. 研修で学んだ知識が実施病院および下位病院で普及する
研修を実施した病院内で、COVID-19およびその他感染症に対する病院管理、そのための体制整備、臨床現場における院内感染対策が見直される
3. 研修で学んだ知識が更なる研修で普及する
既存の各病院間のネットワークや病院間の指導システム(DOHA)を通して学んだ知識が全国的に波及する
現地予算での持続的な感染症対策の研修実施される
4. 国家のマニュアル・ガイドラインに研修で学んだ知識が取り込まれる
5. 技能により質の高い医療を受けられる人が増える
6. 対象国の公衆衛生・医療水準の向上に貢献する

赤:実施済み
青:展望

医療技術の他国への拡大の展望:

1. 本事業で院内感染対策を含むCOVID-19対策に関する当院の対応をまとめた教材が作成された
複数言語で作成済。動画あり。
2. アジア・アフリカの同様の課題と研修ニーズを抱える国への研修を実施し、他国に波及する
オンデマンドでの情報共有も可能である。

9

今後の事業のインパクトを記載いたします。

今年度作成したCOVID-19教材パッケージを使用した研修で、垂直的展開と水平的展開を期待しています。

まず、ベトナムにおいては、COVID-19研修をバクマイ病院の管理者中心に実施しました。既に参加者より所属科への資料共有の依頼がありましたが、今後学んだ知識がバクマイ病院内で普及し、適切な感染対策が実施されることが見込まれます。さらに、バクマイ病院がベトナムの下位病院を指導する役割を担っていることから、ベトナムにある既存のDOHAシステムを通じて、知識が下位病院に、更にはベトナム保健省と繋がり強い病院であることから、全国的に波及することが期待されます。継続的な感染症対策の研修が実施され、国家マニュアルに適切な技術が取り込まれ、質の高い医療を受けられる人が増え、ベトナムの公衆衛生の向上に貢献することが期待されます。水平的展開としましては、本年度はベトナムのみで研修を実施しましたが、他国からの感染症対策及びCOVID-19に関する研修のニーズもありますので、他国にも本年度作成した教材を更新して使用することで、更に日本の医療技術が広がることを期待されます。

これでR2年度当事業の報告を終わります。